

「2024年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学教育学部2年 村田 琉衣

① 学習成果

私は昨年、中国語は漢字で書かれているため容易に学ぶことができるだろうという軽い気持ちで中国語を第二外国語に選んだ。また、とりあえず単位を取得することができたらいいという思いのまま昨年の1年の学習を終えた。そのような中、今年度に入り、3月に別の短期留学プログラムに参加した友人から留学が楽しく、多くの友人ができたという話を聞き、また、一度は在学中に海外に行きたいという思いもあったためこの香港中文大学のサマープログラムに応募した。応募した時点では中国語の自分の語学力についてほとんど考えていなかった。

本プログラムを通し、中国語に対するモチベーションは大きく変化した。現地に到着し、一番初めに感じたのは、私の語学力の低さ、特に発音の練習不足だった。バスに乗る時も、何か買いたいものを探す時も、街の人に話しかけられた時も、何も話すことができず、ただただ戸惑うばかりであった。そのたびに他の参加者が通訳をしてくれたが、私はふがいなさ、無力感を覚えた。約1年半、中国語をもっと主体的に勉強していたのならもっと自分で話せたはずではないかと、後悔した。そして、この3週間の語学学習を通して、簡単な日常会話はできるようにするという目標を立てた。3週間の語学学習を経た今、この目標はなんとか達成することができたように感じている。というのも、サマープログラムが終了するときのFarewell Dinnerの時に現地の学生と中国語で会話をするのができ、街に買い物に出た際にも、少しではあるが話すことができたのだ。もちろん、なかなか通じず英語や日本語を交えながら話すこともあったが、中国語を使って会話ができているという状態に非常にうれしさを感じた。また、より中国語を勉強してより多くの人とスムーズに話してみたいと思うようになった。中国語を第二外国語として大学で学習するのは残り半年だが、それ以後も自分で中国語を勉強していきたいと考えている。

② 海外での経験

私にとって本プログラムが初めての海外渡航であった。渡航前は外国に対して漠然とした怖さを抱いていたが、実際に行ってみると、飲食店で水よりもジュースやお茶の方が安価であることや山が多く、急カーブが多いこと、道路が複雑に入り組んでいることなどには戸惑いを感じた一方で、日本の文化が広く受け入れられていること、香港にはイギリスの文化や中国の文化など様々な文化が集まっていることなど、嬉しさや面白さを感じた。また、香港ではQRコードを読み込んでスマホで注文することができることや公共交通機関でクレジットカード決済をすることができることなど、日本ではあまり進んでいない事柄を体験し、その良さを実感した。

④ プログラム内容

私は中級のクラスで語学学習をした。中級では自己紹介やアドバイスの仕方、部屋の探し方、香港の文化への戸惑いなどのトピックについて主に中国語で授業が展開されていた。京都大学での講義とは異なり、ペアワークが多く、発音する機会が多かったため、発音が苦手な私にとっては有意義であった。また、オリエンテーションやツアーなどで現地の学生と共に、香港料理をいただくことで、どのように食べたらよいのかなどの香港の文化を学び、それに倣うことができた。

⑤ 進路への影響について

私は日本で就職することを主に考えており、その考えは変化していない。しかし、香港の学生との英語力の差を痛感し、どのような職業に就くにせよ、自身の英語力及び中国語力を高めることはこの国際化が進む現在において大切であると考えようになった。来年から就活が徐々に始まっていくが、本プログラムを通して、多様な人々とかかわることで、自分の視野がより広がり、将来の選択肢が増えたように感じる。